原子力・放射線部会

「第２３回技術士の夕べ」レジュメ

日　時　　２０１１年3月４日（金）１８：００～２０：００
場　所　　技術士会葺手ビル５階 AB 会議室
参加者　　２８名（講師含む）

１．講　演
「原子力分野における技術士への期待」　講師：田邉朋行氏（電力中央研究所）

２．講演概要
コンプライアンス・技術者倫理を題材に、原子力分野における技術士への期待、及び技術士という資格をどのように組織・社会の中で位置づけたら良いかについて講演があった。講演は、大きく４つの項目（①「日常」と「非日常」と資格、②コンプライアンス・技術者倫理と判断、③判断能力を阻害する「罠」、④技術士への期待）について行われ、それぞれ一般的な事例を用いた解説がなされた。

田邉朋行氏

初めの①“「日常」と「非日常」と資格”では、技術士のような資格に関する議論が活性化している背景として、従来、有資格者は「非日常」を主な活動の場としていたが、企業内専門家の必要性増大等により、「日常」と「非日常」の境界があいまいになってきている状況について説明があった。

②“コンプライアンス・技術者倫理と判断”では、コンプライアンス・技術者倫理の本質として捉えるべき「判断能力」の必要性について解説があり、特に技術者倫理に求められるものとして、専門能力、技術的能力を踏まえた上で、緊急時には公衆の安全を優先する等の判断能力を備える技術者（技術士）が必要であるとの意見があった。

③“判断能力を阻害する「罠」”では、近道選びの「罠」として時計を利用したマジックや、同調の「罠」としてアッシュの同調実験について紹介があり、技術士が率先して「判断の支柱」になれるよう努力して欲しいとの要望がなされた。また、形式主義・完全主義の「罠」（「本音」と「建前」の乖離に伴う重要ルール違反）では、例として JCO 臨界事故が挙げられ、技術士は「なぜ？」そのようなルールやシステムがあるのか（Why?）を考え、技術的専門知識をバックにしたメッセンジャーになって欲しいとの期待が寄せられた。

④“技術士への期待”では、「質の高い」議論ができる職場環境作りとして、専門知識に裏付けされた人々が会議を舵取りする必要性、そのためのファシリテーションスキルとセンスを持つ者が職場にいることが必要であるとの紹介があった。その上で、技術士がファシリテータースキルを持つことの大切さについて説明があり、組織に「質の高い」議論ができる風土を根付かせて欲しいとの期待が寄せられた。

最後に田邉講師からは、制度としての技術士活用の議論から離れたとしても、技術士一人ひとりが組織の中で果たすべき役割は非常に大きく、役割が明確になれば制度も改善されると考えられるため、今後も技術士に期待しているとのお言葉を頂いた。

３．意見交換会

進行役（桑江幹事）より、意見交換会を実施するにあたって、第７回技術者倫理研究事例発表大会で使用したプレゼン資料「真の安全文化醸成に向けて～原子力分野の技術士が果たすべき役割～」（抜粋）の概要説明があり、今回の講演の内容を踏まえた問題提起後、自由討論を行った。

自由討論では、

ａ．技術士がファシリテータースキルを持つ必要があるのか。

ｂ．企業の中では、「技術士とは、何ができる存在なのか」等対応を持て余している局面もあるのではないか。

ｃ．技術士数人が集合すれば、それぞれが正しい意見を主張すると思う。その意見の整理をするためにファシリティースキルは重要と思う。

ｄ．臨界事故隠し等の背景には、日本人の文化の弱さがあるように思う。文化の弱さを補うのに何が必要か。

等の質問や意見が出され活発な意見交換がなされた。

最後に、成合先生より「コンプライアンスや技術者倫理などを考える場合、学会でも行っているように事例をベースに考えることが大切であり、今後も継続して意見交換会等を行って欲しい」とのご意見を頂いた。閉会予定時刻を過ぎ、「コンプライアンスや技術者倫理は、まだまだ意見が出し切れないと思う。今後も継続的にこのような場を設けていきたい。」との進行役の言葉で閉会した。

―以　上―